

HEART2024 第77回山口県美術展覧会



会期 2025年 2月27日(木) - 3月16日(日) 休館日：3月10日(月)

「県美展（山口県美術展覧会）」は、今回で77回目となる伝統ある公募展です。山口県在住の作家を中心に公募された作品の中から、2日間にわたる厳しい審査によって入選作が決定され、とくに優秀な作品が大賞・優秀賞に選ばれます。審査の過程がすべて公開（要申し込み）であることも県美展の大きな魅力の一つです。ぜひ一度、スリリングな審査の現場に立ち会ってみてください。そして、県美展の最大の特徴は作品のサイズや形式、ジャンルなどにまったく制限が設けられていないこと。展示室は色とりどりの自由で創作意欲あふれる作品でいっぱいになります。またミュージアム・ショップには、県美展の作家たちの作品を実際に買うことができる「アート・マート」のコーナーもあるので、展示室の内外でお気に入りの作品を探してみてください。

特別展示 昨年度の大賞受賞者である井岡義朋氏による新作を展示します。

審査員 成相肇(東京国立近代美術館主任研究員) 不動美里(姫路市立美術館館長) 松井紫朗(彫刻家、京都市立芸術大学教授)

観覧料 一般 500(400)円 学生 400(300)円
※()内は20名以上の団体料金。
※70歳以上、18歳以下は無料。
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校在籍の方等は無料。
※障がい者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。



第76回山口県美術展覧会 大賞受賞作品 井岡義朋(山口市)《鬼哭啾啾》

お知らせ

山口県立美術館ウェブサイトはリニューアル(令和6年4月)に伴い、下記のとおりサイトURL(ドメイン)を変更いたしました。

変更前: <https://www.yma-web.jp> → 変更後: <https://y-pam.jp>

「お気に入り」「ブックマーク」等にご登録いただいております場合は、新しいアドレスで登録し直していただけますようお願いいたします。

2024 - 2025

schedule
山口県立美術館 令和6年度展覧会スケジュール

	コレクション展示	特別展示
8月	7/30(火)~9/1(日) 生誕350年 雲谷等鶴とその時代	6/25(火)~9/1(日) 没後50年 小林和作展
9月	9/12(木)~10/20(日) 受贈記念 松林桂月展	7/4(木)~8/25(日) 没後50年 香月泰男のシベリア・シリーズ ファーストマンデー 8/5
10月	9/12(木)~12/25(水) 吉村芳生 一日々、写しつづけてー	9/12(木)~11/10(日) 超絶技巧、未来へ! 明治工芸とそのDNA ファーストマンデー 10/7、11/4
11月	10/22(火)~11/24(日) 雪舟と雲谷派 仏のすがた人のすがた	11/22(金)~1/26(日) 坂井眞理子展
12月	11/26(火)~12/25(水) 霊獣を描く 一龍一	1/23(木)~1/26(日) 第77回山口県学校美術展覧会 全館休館 [1/27(月)~1/30(木)]
1月	1/31(金)~2/2(日) 山口3大学合同卒業展 山口大学・山口県立大学・山口芸術短期大学	2/27(木)~3/16(日) 第77回山口県美術展覧会 全館休館 [3/17(月)~3/31(月)]
2月	施設改修工事のため休室	
3月		

Information

■休館日 月曜日 ※祝日もしくは振替休日の場合は開館し、翌火曜日休館。ただし、特別展開催時は火曜日も開館。特別展開催中の第1月曜日(ファーストマンデー)は開館。
臨時休館 9月2日(月)~11日(水)、12月26日(水)~2025年1月5日(日)、1月27日(月)~30日(木)、2月3日(月)~26日(水)、3月17日(月)~31日(月)

■開館時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)

■料金 コレクション展: 一般300(240)円 学生200(160)円
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校在籍の方等は無料。
※障がい者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
※令和6年(2024年)度メンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員の方、法人サポーターズ会員の方は無料。

特別展ほか: 展覧会によって料金が異なります。



山口県立美術館の公式アカウントはこちらから



山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural Art Museum
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
<https://y-pam.jp/>

Yamaguchi Prefectural Art Museum

142

Contents

コレクション展

コレクション展

受贈記念 松林桂月展
雪舟と雲谷派
仏のすがた人のすがた

坂井眞理子展

特別展

超絶技巧、未来へ!
明治工芸とそのDNA

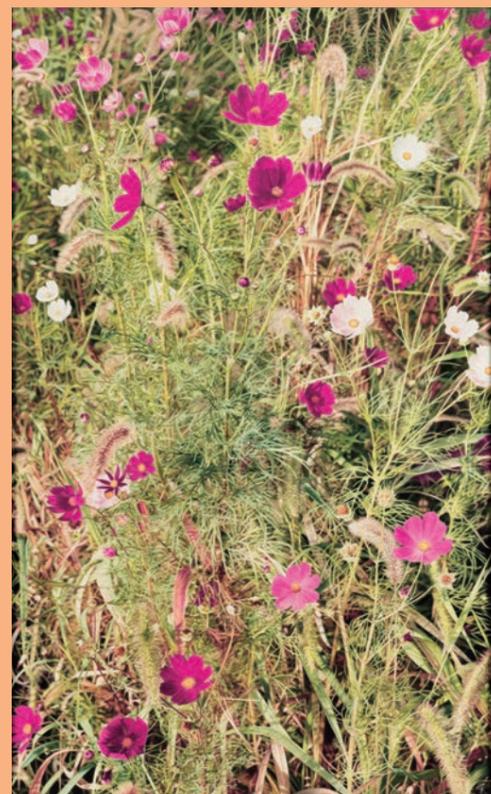
いのちの色、いのちのかたち

第77回山口県美術展覧会
年間スケジュール

山口県立美術館ニュース「天花」

天花

TENGE



吉村芳生 《コスモス》 2003年 色鉛筆/紙 山口県立美術館蔵

コレクション展

吉村芳生 一日々、写しつづけてー

2024年 9月12日(木) - 12月25日(水)

表紙作品解説

吉村 芳生《コスモス》
2003年
色鉛筆/紙 219.0×132.8cm
山口県立美術館蔵

濃桃、薄桃、白色など、色とりどりのコスモスの群生。合間には、枯れかけのものから青々としたものまで、猫じゃらしも多数。毎秋どこかで見かけるような眺めが、縦2mを超える大画面に、花一輪が大きいものだと15cm程度の大きさまで拡大して描かれています。……そう、これは写真ではありません。描かれているのです。近づいてみれば、植物の花弁や茎、葉っぱは、色鉛筆による一筆一筆の痕跡の集合体であることがはっきりと見えてきます。

吉村芳生(1950-2013)は防府市生まれ。鉛筆を用いて、日常の何気ないモノや風景を独自の手法で写した作品で知られる美術家です。このような花をモチーフとした作品は、1990年頃から制作され始めたもの。1985年以降、制作の拠点を広島から山口の徳地へと移した吉村は、それまでのモノクロによる表現に行き詰まり、長いスランプに陥っていました。そんな中出会ったのが“花”というモチーフだったのです。中でも、年々増えていく休耕田に植えられているコスモスは、毎年撮影するうち、純粋に花を美しいと感じる気持ち、もっと色を使いたいという気持ちが湧いてきたのだと言います。

色鉛筆によって写されたコスモスを見ていると、モチーフを撮影した写真をマス目ごとに拡大・転写していく手法はそれまでと変わらぬ機械的なものながら、毎年咲き誇るそのたくましい生命の営みと美に心動かされた吉村の想いが、確かに感じられるようです。

(山口県立美術館 学芸課主任 矢追愛弓)

Collection

山口県立美術館ニュース「天花」第142号 令和6年8月発行

編集 指定管理者サンポート・パブリシティ・インタービズグループ 発行 山口県立美術館 印刷 麗報社写真印刷株式会社

コレクション展

受贈記念 松林桂月展

会期 2024年
9月12日(木) - 10月20日(日)
休館日: 9月30日(月)

萩に生まれた日本画家・松林桂月(1876-1963)は、明治・大正・昭和の三代にわたって活躍し、多くの名作を残した近代を代表する巨匠です。本展は今年の一月に桂月の代表作「雨後」を含む八点の作品が山口県に寄贈されたことを記念して開催するもので、桂月の故郷・萩の郊外にある名勝を描いた傑作「長門峡」や、極彩色の花鳥画の大作「秋園」など、「最後の文人画家」と称された桂月の豊かな芸術世界をご紹介します。



松林桂月《雨後》1955年 山口県立美術館蔵

コレクション展

雪舟と雲谷派 仏のすがた人のすがた

会期 2024年
10月22日(火) - 11月24日(日)
休館日: 月曜日(ただし、11月4日(月)は開館)

山水画家としてのイメージが強い雪舟ですが、近年は徐々に人物画・仏画の分野の作品に対する評価が高まっています。本展では、最近新たに紹介されて話題となった、雪舟がまだ「拙宗」と名乗っていた若い頃の作品「騎獅文殊・黄初平・張果老図」や、昨年度国の重要文化財に指定された雲谷派による三点の肖像画など、日本絵画史を代表する水墨画家・雪舟と、江戸時代にその画風を継承した雲谷派の画家たちによる人物画・仏画の名作をご覧いただけます。



雪舟等楊《騎獅文殊図》室町時代個人蔵

特別展

超絶技巧、未来へ! 明治工芸とそのDNA

会期 2024年 9月12日(木) - 11月10日(日)
開館時間: 9:00~17:00(入場は16:30まで)
休館日: 9月30日(月)、10月21日(月)、10月28日(月)

観覧料 一般 1,500(1,300)円、シニア・学生 1,300(1,100)円
◎コレクションセット券(当日券のみ) 一般1,600円、学生1,400円
◎前売り券およびオンラインチケットにて本展を観覧の方は当日に限り、コレクション展を100円でご覧いただけます。

※シニアは70歳以上の方、()内は前売り、オンラインチケットおよび20名以上の団体料金。
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。
※障がい者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
※前売り券は、ローンまたはミニストップ店内のLoppi(Lコード: 61647)、セブンチケットでお求めください。オンラインチケットの購入については、当館ウェブサイトをご覧ください。

主催 山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送
協力 清水三年坂美術館
監修 山下裕二(明治学院大学教授)
企画協力 広瀬麻美(浅野研究所)
特別協力 エフエム山口
特別協賛 西京銀行



大竹亮肇(1989年生まれ)《月光》2020年

木彫

蝶は「立体木象嵌」。水滴は板全体を彫り下げて浮き彫りにし、研磨してツヤを出しています。

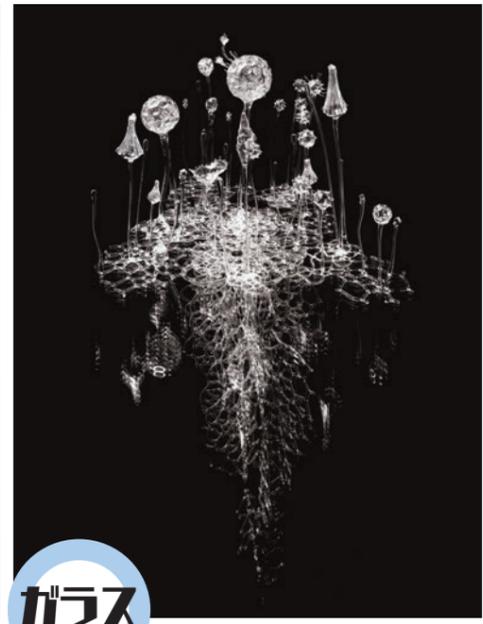


福田亨(1994年生まれ)《吸水》(部分) 2022年



陶磁

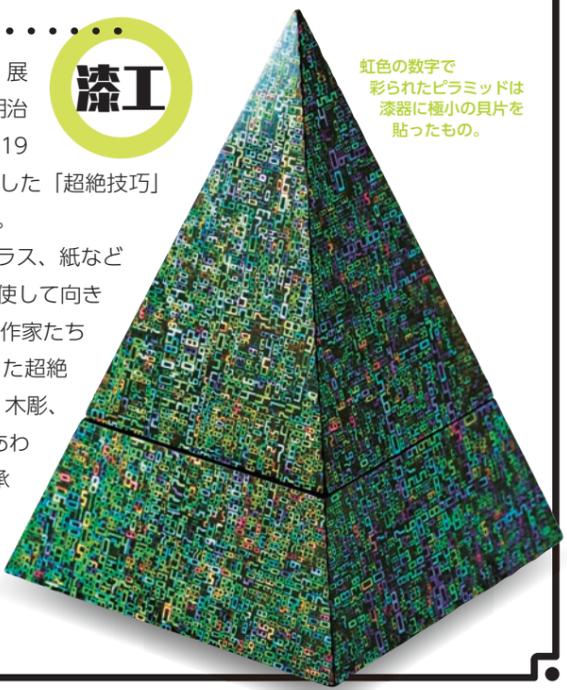
稲崎栄利子(1972年生まれ)《Euphoria》2023年



ガラス

青木美歌(1981~2022)《あなたと私の間に》2017年

漆工



虹色の数字で彩られたピラミッドは漆器に極小の貝片を貼ったもの。

これまで「超絶技巧! 明治工芸の粹」展(2014~2015年)、「驚異の超絶技巧! 明治工芸から現代アートへ」展(2017~2019年)と全国を巡回し、多くの人々を魅了した「超絶技巧」シリーズ。本展はその第3弾となります。このたびは、金属、木、陶磁、漆、ガラス、紙などの多様な素材に、鍛錬を重ねた技法を駆使して向き合い、新たな表現領域に挑む17名の現代作家たちの作品を、新作を中心に紹介します。また超絶技巧のルーツでもある七宝、金工、漆工、木彫、陶磁、刺繍絵画などの明治工芸の逸品もあわせて展示します。明治工芸のDNAを継承しつつ、独自の美意識を貫く作家たちが繰り出す驚きの超絶技巧の数々にご注目ください。

池田晃将(1987年生まれ)《百千金字塔香合》2022年

坂井眞理子展

いのちの色、いのちのかたち



《大地がざわめく》2009年 油彩/カンヴァス



《ニューヨークに住んだ》2022年 油彩/カンヴァス

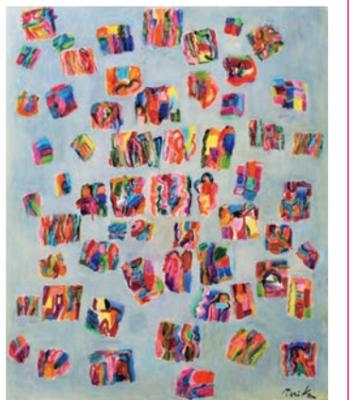
会期 2024年 11月22日(金) - 1月26日(日)
開館時間: 9:00~17:00(入場は16:30まで)
休館日: 月曜日
※ただし12月2日・1月6日(フェーストマンデー)、1月13日(祝・月)は開館。年末の休館は12月26日(木) - 1月5日(日)

観覧料 一般 500(400)円、シニア・大学生 400(300)円
※シニアは70歳以上の方、()内は20名以上の団体料金。
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。
※障がい者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。

主催 ミュージアム・タウン・ヤマガチ実行委員会

坂井眞理子(1940-)は、山口市湯田温泉で生まれ、中学・高校時代を宇部市で過ごした山口県ゆかりの作家です。1958年に女子美術大学へ進学、大学3年生の時にアメリカ抽象表現主義の作家たちとその作品を知り、ニューヨーク行きを決意。卒業後間もない1962年夏、渡米してブルックリンミュージアムアートスクールで学びました。2年後、半年をかけてヨーロッパおよびエジプトを旅し、各地の美術館等を回って帰国。帰国してからは、結婚し、出産や育児と向き合う間にも挿絵の依頼を請け負うなど制作を続け、1975年に新橋の第七画廊で10年ぶりに開催した個展を皮切りに、国内外で継続的に個展を開催し、画家として精力的に活動を続けてきました。

本展では、画家・坂井眞理子のニューヨーク留学時代の作品から、近年の大作にいたるまで、その画業をたどります。鮮やかな色彩に満ちた絵画世界をお楽しみください。



《女神になった母-母と私》2015年 油彩/カンヴァス